

能楽研究 27巻 : 奥付

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

能楽研究 : 能楽研究所紀要

(巻 / Volume)

27

(開始ページ / Start Page)

230

(終了ページ / End Page)

230

(発行年 / Year)

2003-03-30

〔編集後記〕

『能楽研究』第二十七号をお届けする。今年度は、能楽研究所が生まれて五十周年を迎えた節目の年。七月の記念展（「能楽資料の美」）をはじめ（十月にも開催）、記念セミナー（「能楽の源流を探る」六日間）、記念出版（野上豊一郎著『太郎冠者・山伏行状記』檜書店）、記念頒布（16ミリ映画『名家の面影』のVHS制作）、十一月の記念能（新作能「草枕」上演）まで、記念行事や事業が相次いだ。いずれも、学内外の関係機関のご協力を得て進め、幸いにも好評を博した。関係各位に対しあらためて御礼申しあげる。

なお五十周年記念事業として新構想による『世阿弥全集』（岩波書店）の準備にも着手した。また本学が文部科学省の21世紀COEプログラムに申請した「日本発信の国際日本学の構築」が採択され、能楽研究所もその一翼を担っている。

このように多忙な中での紀要の発行であるが、今号には、山中玲子所員「『浮舟』をめぐって―『五音下』所収不明謡との関連など―」、橋本朝生所員「大蔵長大夫考」、大谷女子大学教授小林健二氏「中津藩の神事能―『中津藩能番組』をめぐって―」、表章前所長「大鼓金春流」考（下の二）―金春三郎右衛門家の歴代、他―と表きよし所員の「能界展望（平成13年）」を載せることができた（以上縦組み）。

山中論文は武家歌人横越元久が作詞し世阿弥が作曲した『浮舟』に関する新視点からの考察。橋本論文と小林論文は、平成14年度文部科学省研究費補助金（基盤研究B1）による共同研究「中世から近世・近代にいたる都市と能楽との関係について」の総合的研究」の成果である。表論文は流儀廃絶のた

めこれまで研究皆無の大鼓金春家の歴代ほかの事績の解明で、今後の指標となる論考。表きよし所員の能界展望は初めての執筆。研究展望はギリギリまで努力したが、次号送りとせざるを得なかったことをお詫びする。

横組みの分は、西野春雄「日本美術史家フリードリッヒ・ペルチンスキー研究(2)」と吉田次郎氏の翻訳の続き。吉田氏のご高配に感謝申し上げます。記念行事の詳細は次号にご報告するが、今号に、記念展示を担当した岩崎雅彦所員の報告を載せた。

能楽研究所は五十周年を一つの節目として新時代を迎えた。今後とも、皆様の変わらぬご高誼・ご支援を心からお願ひ申し上げます次第である。
（西野春雄）

二〇〇三年三月三十日 発行

能 楽 研 究 第二十七号

102-8160 東京都千代田区富士見二一七―一

〔TEL〕〇三三三六四九八一五

〔FAX〕〇三三三六四九六〇七

編集兼 野上
発行者 記念 法政大学能楽研究所

所長 西野春雄

印刷所 三和印刷株式会社
長野市川中島町一八三二―一